

Dr.わーだーの養生記

vol.28「合唱とコロナ」

こちいいん
心血医院 院長 和田 豊郁



2020年3月8日オランダで合唱・独唱を含む交響楽団の公演では前日のリハーサル時15名、当日30名を超す体調不良者が、公演後は130名の出演者のうち、102名のクラスターとなり数名が重症、1名とメンバーの家族計3名が死亡。聴衆には発病者はありませんでした。アメリカでは同年3月10日夜にカゼ症状の1名を含む61名が室内で2時間半の合唱の練習をしました。その後検査で32名の感染者と症状から新型コロナ疑いとされた20名、計52名のクラスター、死者2名となりました。岐阜県可児市では同年3月22日～26日に合唱団でクラスターが発生し高齢者2名が亡くなりました。合唱で重症化しやすいのは口から肺に息を大きく吸い込むからです。飛沫が届かなくても人の吐いた息は意外なほど遠くまで拡散せずに届きます。発症前から感染力はあると言います。誰もがウイルスを持っているかもしれないというイメージで考えないと対策は不十分となってしまいます。

■ 心血医院

久留米市日吉町14-68 / TEL.0942-65-5129

診療時間:〈月～土〉9:00～12:00、〈月火・木金〉19:00～22:00

休診日:日祝・盆・年末年始